

美杉山荘 建設プロジェクト

工事の途中に・・・木材店見学

木造建築の面白さ(=難しさ)には、材料である木が自然素材であることに由来するところが多々あります。まず樹種の多さがある、適材を適所に使用するための組み合わせが無数にあります。また、同じ樹種であっても育った環境や樹齢、表や裏、末や元、芯材や辺材など部位による性質の違いも大きく、性質に応じた用い方をするためには、相当な“目利き”が必要になります。この領域は、一般的な建築教育では深く立ち入ることが困難で、業界内でも熟練の大工職や木材業者に委ねる部分の多い領域です。

山荘建設も骨組みから外部・内部の仕上に入り、工事での様々な実体験で、多少なりとも木の感触をつかんだ学生と共に、木材店へ見学に行く事を思いつきました。



2008 今昔館展示模型



2007 西武庫地地リフォーム



2006 N氏の山荘建設



2004 琵琶湖別荘建設



2003 香住古民家移築



2002 大飯古民家移築



2000 朽木研修所離れ



見学させて頂いた山勝木材は、木に対する思い入れの大変強い会社です。2本と同じものがない木材(原木にしても製品にしても)の一本一本を吟味して、工業製品にはない特性(生き物特有のクセ)を読み取ったうえで、最もふさわしい用い方を常に追求されています。立ち木を見るために山に入り、伐採時期や自然乾燥の指示をし、木理を生かすために自ら製材機械を操作することもあるようです。大工職や工務店・設計者からの信頼も厚く、木材そのものよりも、木のノウハウを売っているような木材店に思えます。



全長 15Mの梁材です。施主のこだわりに応じて、京都の北山から木目の詰んだ(間隔の狭い)杉材を選んだとのこと。見学当日も、宮大工の棟梁が木の相談に訪れていました。



工場内で大工さんがお寺の門屋を加工中でした。思わず見入ってしまいます。(上)製材機の前で、どのように丸太を製品に挽くか、レクチャーを受けました。(下)

